

# 長畝ふるさと通信

【2019年6月号】

## ■ 6月前半は晴天、後半は恵の雨？

5月の田植以降、ず～と雨が降らず水の心配ばかりしていましたが、後半になって恵の雨が…。



＜7月1日現在のコシヒカリの生育状況＞（佐渡普及センター稲作生育速報より）

	今年値	前年値(前年比)	目標値(目標値比)
草丈(cm)	51	39(131%)	49(104%)
茎数(本/㎡)	640	536(119%)	500(128%)
葉数(葉)	10.2	9.1(+1.1)	10.0(+0.2)
葉色(SPAD値)	40.2	38.4(+0.6)	39.0(+1.2)

6月中旬から「中干し」を始めたのですが、下旬に結構な雨が降ったおかげで田面が干せず、草丈が異常に伸びて茎数も増え、一株の葉数も増えてしまいました。葉色も濃く、一見して見ると「今年は出来が良い」と思われがちですが、決してそうではありません。何故かというと…

## ■ 中干しってとっても大切な技術です

通常、田植えから35日経ったら「中干し」に入ります。なぜ「中干し」が必要かというと…

- ① 水を切ることで、それまで水面下にあった田面に酸素が供給される
- ② 根っこがその酸素を吸収して、伸びる → より広範囲から養分を吸えるようになる
- ③ 根っこに養分が行くので無駄な分けつがなくなり、1本1本の茎が太く育つ
- ④ 茎が太いと葉も広がるので、受光体制が良くなり「光合成」が活発化し、登熟性が高まる

⑤ 登熟性が高まるとモミの粒が大きく、張りが厚い立派なコメになる。

今年は後半の雨で十分な「中干し」ができておらず、無駄に草丈が伸びて「無効茎」(必要以上の茎)が多くなっているのです。このままでは昨年と同じ小粒なおコメになってしまうかも…。

「追肥(穂肥)」を打つなど7月の対策が必要です。

## ■ 溝切もとても大切な技術



中干しをした田んぼに溝を切っておくと溝に沿って水がはしるので、田んぼ全体の排水や給水がとってもスムーズになるのです。

基本的には外周と中に8本程度の溝を切るなので、バイク式になったとはいえ結構な重労働です。

6月中旬にはトンボの羽化が始まり、溝切最中に数え切れない数のトンボがバージンフラって行きます。厳しい中にも心休まる瞬間があります。



## ■ 生きものも活発化？

田んぼの脇に作った「江」にはオタマジャクシがうじゃうじゃと泳いでいます。足が出て「変体」し小さなカエルたちが我先にと畦をよじ登っていきます。強い生命力を感じます。



一方でアメリカザリガニも異常繁殖しており、せっかく植えた苗を遠慮なくハサミで切って遊んでいます。一株にこれほどのザリガニが群れている光景は初めて見ましたが、半径3メートル四方の苗は全滅しました。生物多様性万歳！

やけくそです…

## ■ 毎日草刈り、草刈り…草刈り

田植え後に草刈りをしたばかりだというのに、あっという間にまた草ぼうぼう…。高温多湿は植物にとって大歓迎なのでしょう。暑い夏に向けてまた、毎日毎日草刈りです。除草剤を使わないのは佐渡百姓の意地です。

黄色い花はタンポポではありません。「ブタナ(豚菜)」というこれも外来種です。外来種は在来種に比べて繁殖力が強いのか、支配力が増してきます。アメリカの軍事力は「抑止力」か「支配力」か…在来種の反撃は出来るのだろうか…

